



週報

2016~2017 年度 RI 会長 ジョン・ジャーム
RI のテーマ 『人類に奉仕するロータリー』
地区のテーマ 『知恵と元気を』 ガバナー 前嶋修身

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン 〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 佐藤圭司 会長エレクト 宮野ふさ子 副会長 小島美恵子 幹事 益子伸明

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1103 回(9 月 27 日)例会の記録

点 鐘 佐藤圭司会長
合 唱 手に手つないで
第 2 副 S A A 肥沼会員 小室会員

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
34名	24名	69.69%	71.87%

パスト会長の時間

吉松幸吉パスト会長

今日は児玉圭司さんという方の話をしたいと思います。児玉さんはスヴェンソンという髪を一本一本結んで髪の毛を増やす会社を経営していて、そこは 97%の継続率を以って現在に至っています。とても儲かっている会社ですごいなと思います。その児玉さんがとても若くして先にノーベル賞を受賞された山中伸弥さん(現在 37 歳 大阪生まれ)に対談を申し込んだのですが、なかなかパス出来ず、一か八かで i P S の研究所に直に電話したところ、たまたま電話をとられたのが山中先生で、事情を説明してやっと対談が実現したという事です。山中先生は 2012 年にノーベル賞生理学賞を受賞して現在 54 歳ですから、二人はいかに年の差があるかが分かります。再生医療を可能にする i P S 細胞を世界で初めて発見してその実用化はめざまし



いものです。児玉さんは昭和 10 年生まれで、山中先生とは年が 27 歳も違います。現在 81 歳ですが、日本の卓球界の全盛期を牽引して監督業をなさっていました。オリンピックでは金メダルを 17 個獲得している素晴らしい方です。彼は i P S の研究費用を何千万も投資されていて、山中先生もこういった方の後押しがあって先に進むことが実現しているようです。

話は変わりますが、現在の日本の人口をパソコンで調べて人口動態を見ますと、平成 28 年度は 1 億 2,692 万人という数字が出ています。一番最高だったのが 1 億 3 千万近くで、昭和 22 年あたりがピークと書いてあります。狭山の人口は 15 万 4 千人位で毎年減ってきています。人口問題が年々話題になってきて、60 歳になっても子供が産めるような状況に戻したらどうだと医療関係で言っているようですが、もしそれが出来たら想像しただけで大変だと思います。息子や娘に子供が出来たのなら話は分かりますが、自分の子供となると大変な事です。でも将来的にはそんな時代が来るそうで、これからはなんとしても人口を増やすことが重要です。

幹事報告

益子幹事

1. 『青少年を育てる狭山市民会議 第 4 回理事会報告』
2. 『青少年健全育成「地域の集い」』
3. 例会臨時変更 新所沢 RC 入間南 RC

《2015－2016年度会計監査報告》

江原伸夫直前会長

決算書を見て頂くと、大まかな所は予算通りにいっていると思います。ただ、当初は前・後期共に会員36名で計算しており、年会費が多少ダウンしています。その他、細かい部分で多少数字のずれはありますが、ある程度の所で納まったと私共は考えております。

監査 小幡直樹会員

9月6日(火)例会後に江原直前会長、小島前幹事、守屋先生、事務局の斉木さんと監査を致しました。予算と決算がほぼ上手く執行されていたと思います。一項目だけ、クラブ奉仕が随分跳ね上がっていますが、これはテープ起こしをそのまま活字にしたために会報のページが多くなり、決算額が相当増えたという事です。予算と決算書が上手く執行されていました。適正に会計は行われた事を御報告致します。

「会員卓話」……………

片山 進 会員

回想録『日光ジャンボ

墜落事故に接して』



スピーチの前に簡単な自己紹介をします。出身地は群馬県新田町（新田義貞発祥の地）に昭和12年3月11日生まれ、この地で育つ。

昭和33年6月、航空自衛隊に入隊、入間基地を最後に定年退職、現在79歳となりました。

さて、本題に入りますが、今日の話は私の人生において一番心に残っている体験をお話したいと思います。

皆さんも記憶に新しいと思いますが、忘れられない事故であります。それは日航機墜落事故であります。

1985年(昭和60年)8月12日午後6時12分、大阪空港を目指して羽田空港を飛び立った日本航空123便（ボーイング747SR-100型JA8119号機）は離陸12分後の6時24分35秒、機体後方で「パーン」という異常な音が発生し、垂直尾翼が破壊し、

胴体尾部が機体から脱落し操縦不能となった事故であります。

事故当日の8月12日勤務を終え自宅に帰っていました。すると午後7時過ぎ、所属する部隊の当直勤務者から、直ちに基地に戻るよう電話がありました。総隊司令部飛行隊に戻った所、ジャンボ機墜落の件でありました。

あとは私の回想として話したいと思います。

ジャンボ機が消息を絶ってから2～3時間位の間に色々な情報が入ってきた。墜落場所は長野、群馬県境の山中であるとか。兎に角情報が入り乱れていた。取りあえず現地に行く準備だけをしておこうという事になり、正確な情報が入って来る迄、一晚中待機した。結局出発は13日午前2時。総員40名で車両での出発となった。

大体の場所は分かったが、車両での道を探すのに一苦労。長野県の川上村に到着したのは午前11時頃だった。そこで車より降り、徒歩で現場へ向かう事になった。突然雷雨に遭遇。立ち往生し、様子も分からなくなり、木陰で待機しているうちに夕方になってしまった。現場に向かうか引き返すか検討した末、二次災害の恐れもある為、川上小学校の体育館へ引き返し一夜を過ごす。

14日になり、上空のヘリコプターと無線連絡を取りながら道なき山を登り、午前11時30分に御巢鷹山の尾根の現場に辿り着くことが出来た。

現場の状況は機体の一部がまだ炎上し、遺体が100m四方に散乱していた。遺体の収容は検視官の調査が済まない出来ない為、一人一人の遺体にシートと毛布を掛け、終了を待っていた。調査が済んだ遺体をヘリコプター迄搬送、午後5時迄続けられた。5時過ぎに川上村小学校へ戻った。

15日も同様の作業が続き、昼に交代部隊が来た為引き継ぎ、部隊に戻ったのは15日の夕方だった。524名の乗員で死者520名、奇跡的にも4人の生存者があり、せめてもの朗報であった。

今年は30年目、8月12日が廻って来る。不幸にして事故に遭われた御巢鷹山で亡くなられた520人の御霊とご遺族の方々には、悲しみは癒えないことでありましょう。この様な事故が二度と起こらないよう、安全運航を心より願っています。

ニコニコボックス

- 佐藤君 本日のパスト会長の時間、吉松パスト会長宜しくお願い致します。又、会員卓話の片山会員、楽しみにしておりました。宜しくお願い致します。
- 益子君 パスト会長の時間の吉松パスト会長、会員卓話の片山会員、楽しみにしていました。宜しくお願いします。
- 江原君 本日はパスト会長の時間で吉松パスト会長がお話しを下さり、卓話の時間では片山会員がお話しをさせていただきますので非常に楽しみにしております。宜しくお願い致します。
- 小島君 吉松パスト会長、パスト会長の時間宜しくお願い致します。片山会員、会員卓話楽しみです。
- 守屋君 家内の葬儀に際しましては皆様から色々御配慮を賜り、特に会長殿には斎場まで御来駕下さいました。
- 佐々木君 すみません。早退させていただきます。



※ 次の例会

10月4日(火) 12:30~13:30

第2副SAA: 栗原(憲)君 栗原(成)君

第3Gガバナー補佐訪問

野本 俊光 様